

# 富裕層の寿命縮める格差

## がん社会 を診る

中川 恵一

で格差が拡大しています。

社会における所得格差を測る指標がジニ係数です。0から1の範囲で、値が大きいほど格差が大きいことを意味します。アバルトヘイトが問題となった南アフリカのジニ係数は極端に高い0・63で、米国の0・39も主要国トップクラスです。

米大統領選挙でトランプ候補が再選された場合、格差は一段と拡大する可能性があります。同氏は保護主義的な関

税引き上げと減税を提唱しています。輸入物価の上昇は低所得層の負担を増やす半面、減税の恩恵は高所得層に偏るためです。

欧州の多くの国のジニ係数は0・3前後で、社会保障が充実した北欧諸国で低いです。日本のジニ係数は0・38まで上昇しています。いまや格差大国も目前で「一億総中流」の面影は見られません。

所得と寿命の関係は「上に凸の曲線状」となります。貧困層はがん死亡も多く、短命になります。所得がわずかでも増えれば生活習慣が改善、医療へのアクセスも向上し、劇的に寿命が延びます。他方、いくらお金があっても、人の健康や寿命には限りがあるため、所得がある程度上がると寿命はほとんど延びなくなります。

を引つ張られる形で平均寿命が低下します。格差はさつぱら、お金持ちの寿命にもマイナスの影響を与えます。

35年近く前にスイスに留学し、湯川秀樹博士が存在を予言した「中間子」のがん治療の研究に携わりました。住んでいたライン川ほとりの田舎町は、家の鍵をかける必要がないほど平和でした。一方、学会などで米国に行くとき、危険と言われる場所でも常にか緊張を強いられます。

銃規制は大統領選でも争点になっていきます。米国を代表するがん治療医から「低所得者が銃を持っている以上、自分も備える必要がある」とため息まじりに言われたことがあります。彼の年収は私の10倍を超えますが、格差社会では彼のような高所得者もストレスを抱えることになりました。

ひよっとすると私の方が、彼やトランプ氏より長生きするかもしれません。

(東京大学特任教授)

社会や経済の格差ががんに及ぼす影響について、この連載でも指摘してきました。資産をもとにした富は、労働で得られる富よりも蓄積が速いとされます。資本主義経済が続く限り、格差は拡大し続けることになりま。

格差を是正する「富の再分配」は、革命や戦争の後に発生します。日本でも明治維新や太平洋戦争直後に旗本や華族などの特権階級が崩壊し、一時的に格差が解消されました。しかし、戦後の長い平和



イラスト 中村 久美